

○第8次勝山市老人福祉計画・介護保険事業計画について

※ジェロントロジー：老年学

丸山忠男
議員



議 令和3年4月1日現在、勝山市の高齢化率は36.9%で、国や県内の自治体と比較しても高齢化が進んでいる。また、要支援・要介護認定率は17.7%であり、高齢者の5〜6人のうち1人が何らかの支援が必要な状態になっている。

高齢者が安心して暮らしていけるためにも、介護予防の取り組みや要介護状態になっても安心して地域に暮らせる体制の整備が必要となっているが、次の点について伺う。

①介護保険サービスの現在の整備状況並びに介護人材の確保について

②要支援・要介護状態になることを予防し、高齢者の健康づくり、生きがいづくりを推進するためのフレイル（加齢により心身が老い衰える状態）予防の取り組み状況について

理 ①介護保険サービスについて、第8次勝山市老人福祉計画・介護保険事業計画に基づき、令和3年4月に有料老人ホームの8床が介護保険の対象となる特定施設入居者生活介護に移行された。8月は、いわゆるグループホームを活用して行うデイサービスである共用型認知症対応型通所介護が定員2名で新設され、また勝山南部地区にグループホームを1か所選定し、来年度中に整備される予定。

介護人材の確保については、本年度に初めて開催された介護初任者研修の開催を引き続き県に要望していくとともに、特定技能外国人の受け入れ支援を行う予定。

②県が東京大学と進めている※ジェロントロジー共同研究事業の一環として、東京大学が考案したフレイルチェックを活用し、高齢者自身が自分のフレイル状態を把握し、自発的に健康づくりに関心をもつことを推進している。

本年度は2か所でフレイルチェックを実施し、フレイル予防に関する運動や口腔、栄養の講座を行った。

来年度、健康長寿課と生涯学習・スポーツ課が合併するメリットを最大限に生かせる分野が、このフレイル予防、運動と健康づくりについて庁内全体で考えていく。

○トラック業界等運送業者への燃料高騰による支援について ○県の子ども・子育て支援策について

その他の質問

・福井県立大学恐竜学部勝山キャンパスについて ・小児(5歳~11歳)のコロナワクチン接種について ・令和4年勝山市成人式について

安岡孝一
議員



議 現下の燃料高騰は、普段からコスト削減に取り組んでいるにも関わらず、これ以上は自社努力では厳しい状況が続いている。

政府の経済対策では、自治体が行う原油高騰対策に新型コロナウイルス対応の「地方創生臨時交付金を活用することも可能」と明記され、生活困窮者の灯油購入費や漁業者の燃油高騰分の助成などの支援策には、特別交付税措置も講じて地域の実情に合わせた対策を後押しするとある。

原油高騰の影響を受けやすいトラック業者等の運送業者の経営安定策を市として講じることができないか。

理 原油価格の高騰は、様々な業種に影響を与えていて、特に運送業については影響が大きくなっている。

政府が3月10日から燃料油元売りへの補助金上限額を25円に引き上げると聞いているので、この効果を見極めながら、商工会議所と協力して実態把握に努め、具体的な支援策を検討していく。

議 県は2022年度当初予算で、子ども・子育て支援策を強化し、前年度の20億円から倍増の40億円にアップした。勝山の子育て日本一を後押しすることにもなり、大変ありがたい。

勝山でも若い母親から要望が多かった、雨や雪の日でも遊べる屋内遊び場の建設に対し、県は各市町に上限1億円を支援し、2026年度までに全17市町に整備したい考えである。

市民からできれば早くしてほしいとの意見が多いが、市はどのように考えているか。

理 屋内遊び場の整備については、これまでも市内中心部への設置を望む意見を多くいただいていた。

現時点では、実施時期や場所など詳細は未定だが、令和4年度の早い時期に子育て世代の保護者の意見をいただく機会を設け、1日でも早く屋内の遊び場が整備できるよう取り組んでいく。